

平成27年度 宇部市公共交通協議会（計画策定）第1回会議

日時：平成27年（2015年）7月8日（水） 14:00～15:30

場所：宇部市役所 4階 第2・3・4委員会室

出席者：19名（欠席者1名）

澤会長、若本副会長、榊原委員、鈴木委員、福本委員、御手洗委員、辻野委員、
糺委員、隅中委員、宗像委員、山根委員、松島委員、磯部委員、浜口委員、
竹重委員、名越委員、伊藤委員、山根委員、片岡委員

事務局：政策企画課

その他：傍聴者1名 報道機関1社

次第：1 会長あいさつ

2 委員及び事務局職員紹介

3 宇部市公共交通協議会について

4 議事

(1) 副会長、監査委員の選出について

(2) 宇部市地域公共交通網形成計画について

(3) 宇部市地域公共交通網形成計画の策定スケジュール（案）について

(4) 平成27年度宇部市公共交通協議会予算について

5 意見交換

6 その他

1 会長あいさつ

2 委員及び事務局職員紹介

3 宇部市公共交通協議会について

4 議事

(1) 副会長、監査委員の選出について

事務局提案により、副会長を若本委員とすることに決した。

事務局提案により、監査委員を御手洗委員と名越委員とすることに決した。

(2) 宇部市地域公共交通網形成計画について **【承認】**

【委員】

宇部市にぎわいエコまち計画や宇部市立地適正化計画などのコンパクトシティの各種計画と宇部市地域公共交通網形成計画などのネットワーク化の計画を両立していくことは、とても重要だと認識しています。

コンパクトシティの各種の計画と調和していくことが必要だと思いますが、計画策定の調査事業、施策の進め方のあたりは都市計画の部署とどう連携していくのでしょうか。

また、委員にも都市計画関係の方がいませんが、どのように協議を進めようとされていますか。

【事務局】

都市政策推進課等の関係課の職員で構成する宇部市地域公共交通網形成計画検討委員会を、設置しており、ここで協議を行います。

(3) 宇部市地域公共交通網形成計画の策定スケジュール（案）について 【承認】

【委員】

計画が、マスタープラン的な地域公共交通網形成計画と具体的なことをしていくための地域公共交通再編実施計画の2段階に分かれているという認識です。

ダイヤの検討（路線バス運行計画）については両方にかかってくると思いますがどうでしょうか。

【事務局】

地域公共交通網形成計画では、具体のダイヤまでは必要ありませんが、その後の実施計画につなげる重要なところについては、仮のダイヤを作成し本当に実施が可能なかを確認しながら進めていきたいと思っています。

再編実施計画につなげるためには、具体的な事例が必要であると考えています。

(1) 平成27年度宇部市公共交通協議会予算について 【承認】

質問なし

5 意見交換

【委員】

前回の総合連携計画の頃と比べてみると、国の考え方もかなり変わってきていて、コンパクトシティの一貫としての公共交通が打ち出されています。

宇部市の公共交通システムの現状で、より効率的なものにしていくためには初期投資（ICカード等）はしていく必要があると思います。ハブアンドスポークシステムの確立についても同様であると思います。

大きな一つのアイデアとしてハブアンドスポークが挙がっていました。これまで、なかなかうまくいかなかったところもあり、その一つにダイヤがあります。

ハブアンドスポークがうまく機能するには、ハブから幹線側のサービス水準（頻度など）がある程度高くないと難しいです。

また、運賃について、現在は距離制で一乗車ごとであるが、乗り換えを前提としたシステムに変えていくなら、乗継割引など運賃制度を見直す必要があり、それを円滑に実施するにはインフラ投資も必要だと思います。

【委員】

この計画の実施は、いつくらいが目標で、再編実施計画はいつくらいを目処にしていますか。

【事務局】

網形成計画については本年度、来年3月策定を目標としています。

再編実施計画については、平成28年度に作成し、再編事業を平成29年度から最長5年間かけて実施していくこととしています。

【委員】

網形成計画で掲げた計画実施年限は10年ですか、20年ですか。

【事務局】

網形成計画は5ヵ年計画ではありますが、事業はローリングすることになっています。

また、計画ができるまでは、宇部市の公共交通の総合的な方針による見直しを行っていきま

【委員】

私は、都市計画のマスタープランの策定委員もしていて少し感じることがあります。

コンパクトシティ化の議論と公共交通の議論では、時間感覚がずれているような気がします。

公共交通側の危機感のある考え方とコンパクトシティ化側の悠長にも取れる理想論とを上
手く整合させ、目標を共有しながらそこに至るステップを重層的に事業として組み込み、短
期間の施策、長期間の施策、その間に挟む中期間の施策を意識して計画を立てて欲しいと思
います。

【事務局】

幹線の見直し等、喫緊の課題については結果が出しだい順次実施していく。急ぐもの、方向
性の固まったものについては、順次取り組んでいく。

【委員】

宇部市の公共交通の中で市営バスは、大きなものであると思います。そこで、宇部市交通局
の事情について2点お話しします。

平成26年度の実績では、1日6,891人が利用されていますが、平成25年度と比べると2.8%減と減少が続いています。利用客が減れば収入が減り、利益が出ない状況です。

もう一点は、全国的な傾向で運転士は慢性的に不足しています。大型1種免許を取る人もだ
んだん減る中で、その上に大型2種の免許を取る人はかなり少なくなってきました。交通
局も定数にも満たないが、なんとか運行している状況です。

宇部市交通局は、市営なので新しい路線を作ったり新しいバス停を作ったりと市民の要望に
応えてきました。逆に、利用状況を見て路線の減便をしたりもしてきました。

色々なアイデアを出しながら利用促進をしましたが、あまりうまくいっていない状態ですの
で、今回この計画が市民にとって利便性の高いものになることを期待しています。

交通局としてもこの計画を踏まえて改善をしていきたいと思っています。

【委員】

当社は、総合連携計画では旧楠地区（宇部市北部の中山間地域）の一部、万倉地区のデマン
ド運行を県内で初めてバス事業者として取組を行ってきました。残念ながら順調とは言い難

い状態です。

平成25年度の宇部市の公共交通のあり方検討協議会等を通して、一部ではあるが路線バスの等間隔運行を徐々に増やしていっています。

今回の計画等の中で、特にハブアンドスポークという形で、北部から中心部に向けて運行している公共交通事業者として情報提供を行い、ご意見を頂き、より良い公共交通のあり方を検討していきたいと思えます。

【委員】

弊社、サンデン交通も厳しい状況です。下関市がメインになっていて宇部市へはあまり運行を行っていません。

当社も補助がないとやっていけない状況にあります。補助金をもらっても毎年大きな赤字となっています。累積するとすごい赤字ですが、他事業でカバーしてなんとかやっています。補助金をもらえる系統が35%で、残りの65%のうちの50%は補助金なしです。残りの15%が市内の一部で黒字という系統もあります。半分が全く補助金のない自主運行系統で、会社としてもかなり体力的に落ちています。そういったところをどうにかしていかないといけないが、1事業者だけがどうにかなるものでもありません。自治体等に補助をお願いしないといけない状況であります。

企業努力も必要であり、考えてやっていきたいがなかなか追いついていかない状況です。

【委員】

市には日頃から当社の運営に協力してもらっており、はなびーる電車の運行、ときわ公園には、てくてくウォークへの登録をしてもらっています。

現状を申し上げますと、山口地域鉄道部に限らず新幹線だけでも持っているのがうちの会社の実態です。ローカル線の過疎化や当社の立ち上がった昭和62年4月からみると、路線ご利用のお客様が減ったのが現状です。

当社もまちづくりの会合にも参加させてもらっているし、バス事業者さんとも連携を取りながら二次アクセスとしてダイヤなども勉強しながら多くのお客さまに利用していただけるように利用促進を図っていきたくと思っています。

【会長】

利用者からはご意見等ございませんか。

【委員】

今日、バスを利用してこの会議に来られた方は何名くらいいますか。

私は月に4回しか自動車を利用しません。あとは自転車やバスで生活しています。バスに乗っている方は高齢者や子供連れが数名、あとは障害者の方というのが現状です。

この計画を見るととても素晴らしく高度な話に見えるが、実際ICTで多くの予算を使うのであればバスの路線の一つでも増やしてほしいと思えます。

バスの乗り換えなど不便ではありますが、ただの移動手段としてではなく親子や地域の方とのコミュニティのきっかけとしてバスを利用してみてはどうでしょうか。

この会議に参加される皆さんには一度バスを使った生活をしてみて欲しいと思えます。何が

不便なのかを体験してから計画を立てて欲しいと思います。

【委員】

私もバスを使って毎日通勤しています。通勤時間帯には学生と通勤者が多く、最近エコ定期券が普及してかなりバス利用者が増えていると思います。

その中で学生の公共交通の使い方が気になっています。特に JR での使い方の方がひどいように感じます。それを目にするのが嫌でバスを利用しています。

バスも同様で、二人がけの席に荷物を置き高齢者が立っています。そのときは声掛けをして席を空けるよう促しています。みんなに気持ちよく公共交通を使ってもらうためには学校から公共交通の使い方をきちんと指導していただけたらと思います。バスの運転手は苦勞されながらもアナウンスして呼びかけていらっしゃいます。

以前、テレビで地方の赤字路線のバス会社がひとりひとりに目的別の手作りの時刻表を渡し、利用促進をすることで廃止路線が黒字路線に変わったという番組を見ました。通勤利用者は時刻が分かっているが、高齢者は時刻表を見て考えるのが面倒に感じます。それで無理をして車を利用し事故に遭うなど悪循環です。逆に不便だからこそ車で移動してしまい、恐らく親も子供がどのような態度で公共交通を利用しているか知らないと思います。

子供が小さい頃に宇部市で植樹祭のイベントがあり、そのときは交通局がバスを無料で送迎運行していて多くの方が利用していました。市のイベントと連携して運行するなどバスだけではなく一体で考えられたらどうでしょうか。

【会長】

公共交通は日本においては独立採算制をとっており、これは日本独自のものです。高度経済成長期にはうまく機能していましたがもう成り立ちません。

福本委員より運転手の不足とありましたが、最近宅配の配達が遅いと思いませんか。宅配も運転手不足で、トラックは免許制度が変わり乗れない車両が増えました。福島復興やオリンピックに向けて余計地方の運転手が足りなくなると予想されます。

6 その他

【事務局】

次回の会議は10月を予定しています。

なお、今年の10月1日に路線バスやデマンド交通の改正を行う予定としており、道路運送法（要綱の第3条第4号、5号）関係の委員の皆様は8月下旬頃お集まりいただきたいと思っております。